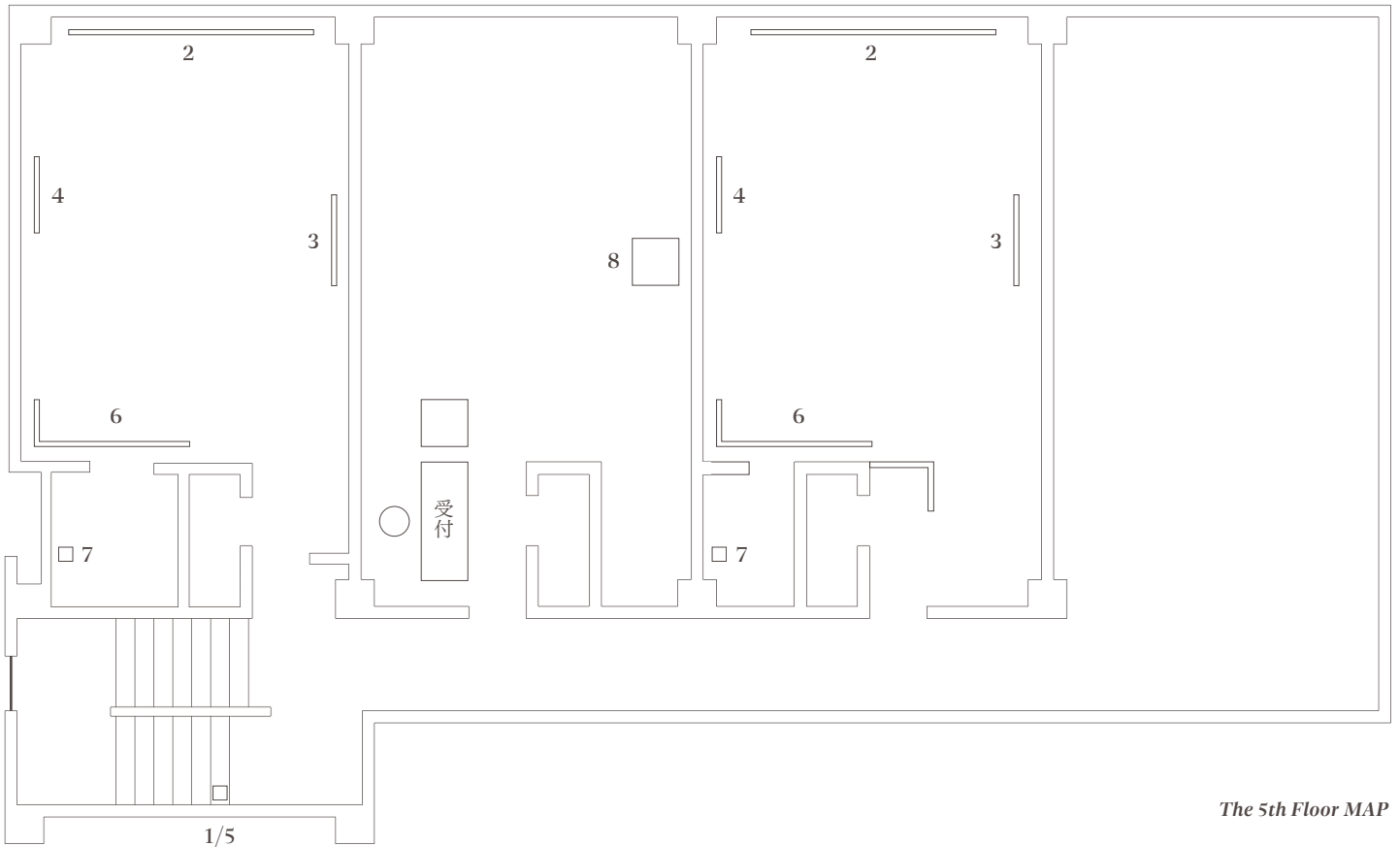


501

502

503



The 5th Floor MAP

1, 五階くらいの高さから落ちてても(あの)猫は死なないという ——じゃあイエネコは？

2017, 映像, 19分30秒／声: リナワティ

グループ展「Surfin'」(2017.6)初出。そのとき会場は集合住宅の五階だった。その頃住んでいた家も集合住宅の五階だった。理由なく繰り返すもの、反復するものは奇妙だけれど、ものほどこか死んでいるからなにかに似ることが出来る。生きものも。

2, なんとらんたらなんとらんたら、さえも

2017, 窓にシール、ベランダに脚立／窓は開閉自由／脚立は昇降禁止

「Surfin'」初出。猫とねずみは好きだ。ねずみの穴はばらばらの隅々を連結する。猫は家の中に締め出される。家にはたくさん穴があって泥棒や羽虫はそれを出入口に使う。人間も脚立にのぼれば平気でベランダの手すりを乗り越えられる。トリュフォーの『思春期』で子どもがベランダから落ちる。たしか十階、この倍だ。

3, windows

2018, ループ映像, 10分50秒

初出は学内公開のみ。隙間はこわい。映像も建物も隙間や死角だらけだ。子どもが十階から落ちて助かるわけがない。でもベランダから落ちた次のカットで、子供はもう歩きだしている。

4, いつまでも見知らぬ二人

2018, 映像をプログラム再生, 時間可変／503はアーカイブ映像, 21分36秒／声: 遠藤麻衣、中西真穂、Yaka／テクニカルサポート: 西村梨緒葉

二人展「明るい水槽」(2018.2, BLOCK HOUSE)初出。タイトルは小田和正から。あの日あの時あの場所で君に会えなかったら、そもそも「僕ら」が存在しない。でも結局出会えた以上、出会わなかった「僕ら」を想像できる。この「結局」とは、取り返しのつかなさだ。知ってしまうと、もう知らなかった頃には戻れない。エントロピーとは別に、そういうふうにも時間は進んでいく。

5, スローアクター

2019, インスタレーション／再構成／声: Yaka

個展「スローアクター」(2019.2, 駒込倉庫)初出。もともとは2階建ての建物全体を使った構成。駒込倉庫の2階にバルコニーがあって、床に天窗があって、真下の1階に光が注いでいた。イヴ・クラインの《虚無への飛翔》を思い出して、ガラスのように凍結した落下を作った。「スローアクター」は毒の「遅延(slow-acting)」から。L'Arc-en-Cielの『瞳の住人』のMVもそんな感じだった。ねじられた時間のなかでわたしたちは予言の刑に処せられる。

6, 無闇

2021, インスタレーション／一部

個展「無闇」(2021.2, TALION GALLERY)初出。もともとはまったく光の入らない暗室。壁の四面に鏡が一枚ずつ、隅にはテキストが1から8まで。だから今回はその四分の一。

7, Next Day, Same Place, Same Time

2015, 映像

個展「Pleasure」(2015.12, トーキョーワンダーサイト渋谷)初出。もともとは展示と同名のインスタレーションの一部。次の日、おなじ時、おなじ場所で、……。

8, Potentiality / Generation

2014, 映像, 16分10秒

協力: 小坂勇太

今回の展示のなかでいちばん過去。このゲームに特にルールはなくて、それらしい動きをしてそれらしいことを言う。そこでたまたま手をまた相手が使いまわして、妙手や悪手を返す。負けたと思ったら負けましたという。

World Ends, No Laughter

2015, 映像, 5分49秒

個展「攻撃的、あるいは迷惑行為」(2015.6, Gallery b. Tokyo)初出。

その気でいさせて

2017, 映像, 15分40秒／声: Yaka

二人展「理想の収納」(2017.11, 東京藝術大学)初出。タイトルは平松愛理から。英題もいい。「Please Leave Me Fooled」。

バカンス〈プロローグ〉

2020, 漫才映像, 18分10秒／出演: キョスヨネスク、矢野昌幸

個展「バカンス」(2020.11, TOKAS本郷)初出。インスタレーション内で上映した2つの漫才映像のうち片方。